

令和6年度 学校評価

1 教育目標

「よく学び いつも元気で やる気いっぱい」の子どもを育てる

2 学校経営方針

子どもが主体的に動く、しなやかでたくましい学校
～予測困難な未来を生き抜く子どもの育成～

3 自己評価

領域	項目	質問内容	児童	保護者	教職員	分析及び改善策
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	94	95	91	○ 学校教育目標「よいや」が根付いてきている。学校目標達成と楽しい雰囲気であるという項目で肯定的割合が高くなった。業務改善と工夫により超過勤務(45時間以上)も減った。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	97	93	91	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			87	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	89	90	44	○ 本年度は、ルールやマナー・挨拶等の生活・生徒指導項目において、昨年度より低い結果となった。全職員で指導を徹底・継続することを共通理解している。 ○ 「いじめ防止対策」では、いじめの萌芽についても見逃すことなく、未然防止や早期解決に努める必要がある。 ○ 心の教育においては教職員の評価が前年度より全項目で低い結果となった。何がダメで何から取り組んでいくか、今一度系統的に考えていく必要がある。
		挨拶をよくしている	92	68	44	
		「あ・は・運動」を知っている(小学校のみ)	89	66	70	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	90	86	91	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	88	79	96	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	89	65	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	93	95	74	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	93	86	96		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	93	94	100	○ 校内では、子どもたちが「自立した学習者」として主体的に学びに向かう研究を進めている。その成果として、全体的に肯定的割合が高い。研究主任を中心に、学力向上を目指した研究が推進されている。
	学習指導課程	わかりやすい授業を行っている	95	93	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	75	65	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	89	87	96	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		95				
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	89	100	○ 基本的な生活習慣である早寝・早起き・朝ごはんについては、保護者に理解と協力を求めていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	82	80	65	
		体力向上に努めている	94	86	96	
	食育	食に関する教育活動を行っている	95	94	91	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	93	91	100	○ どの項も、概ね高い評価となった。PTAや地域の方々が目々来校され、教育活動へ参加される姿を児童も見ている。本校のよい文化であり、継続していきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	87	98	96	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	95	93	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	95	86	74	○ 教職員にとって、働きやすい職場づくりが進んでいる。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

4 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○全職員が「認める・褒める」指導を継続してきていることで、児童が自身の生活の様子に対して肯定的な捉え方を行い、学校全体が落ち着いた中で教育活動が行われている。特に、学習面で「学び合い」を取り入れ、分からないことでも、友達に尋ねたり、調べたりすることができた。3学期からは自立した学習者を目指し、「自主学习オリンピック」を開催できたことも、児童の主体性を伸ばし、支持的風土の安定を図っていく上で、効果的な取組であった。
○学習面の課題は、友達に尋ねる時の声のかけ方や聞き方、会話する力・コミュニケーション力である。「学び合い」や表現する機会を増やし、引き続き指導していく。
○教職員の働き方改革の一助として「テトル連絡ツール」を利用している。しかし、欠席連絡が簡単で容易になり、欠席者が増加していることの原因になり、基本的な生活習慣の評価項目の低さも繋がっていると捉えている。今後も、さらにどのようにして全児童の基本的な生活習慣の向上を図っていけばよいのかについて、家庭や育友会、地域と連携して取り組んでいきたい。
○午前中5時間授業と毎学期実施した家庭学習強化月間により、放課後の「働く時間」の確保ができた。